

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°12 ピエール=オリヴィエ・ボノーム

生産地方：ロワール

新着ワイン4種類♪

AC トゥーレーヌ・テゼ 2012 (白) ※ラッキーな再入荷です♪

2012年のテゼはサヨナラのブドウが入っている！全体的にテゼの収量が少なかったことや、また、サヨナラとなるためのブドウの糖度が十分ではなかったことから、全てのブドウがアッサンブラージュされた！味わいが落ち着くまでにかかった熟成期間は20ヶ月！去年のリリースから1年瓶熟を経て、よりワインの骨格が洗練され複雑味を増している！アルコール、酸、ミネラル等全ての要素が詰まったスーパー・テゼだ！

VdF ヴェルシュニー 2014 (赤)

今回のヴェルシュニーは、ボノームの自社畑のピノノワール100%！本来はシュヴェルニーとしてリリースされるべきワインだが、AOCの規定ではピノノワールは65%までしかブレンドできず、ピノノワール100%では認可が下りないと分かっていたボノームは今回AOCの申請を見送った。一般的にピノノワールの比率の高いシュヴェルニーほど高級に見られる中、このヴェルシュニーは、見方を変えればとても贅沢なシュヴェルニーと言える！

AC トゥーレーヌ・ヴァンクウール 2014 (白)

ヴァンクウール・ソーヴィニヨンの区画は西向きで、南向きの蔵の区画よりもブドウが少し晩熟だが、傾斜のある風通しの良い所にあり、ボノーム曰く、酸とミネラルの乗ったバランスの良いブドウが収穫できるとのこと！2014年のブドウはポテンシャルが高く、樽で仕込んだワインはほぼ発酵を終えたのに対し、タンクのワインは完全に発酵が終わらなかったため4g/Lの残糖があるが、ミネラルと酸がしっかりとある分味わいのバランスは良く、とても飲みやすい爽やかなワインに仕上がっている！

VdF ヴァンクウール 2014 (ロゼ)

カベルネフランが花ぶるいに遭ったため、アッサンブラージュ比は20%と前年に比べて相対的に10%少ない。2014年のブドウは、収量が少ない分ポテンシャルが高く、糖を6g/L残したまま完全発酵に至らなかった。キャンディーのようにやさしく軽快な味わいはアペリティフにピッタリ！

ミレジム情報 当主ピエール=オリヴィエ・ボノームのコメント

2012年は今までに経験したことのないくらい厳しい年だった！4月17日にシュヴェルニー帯にマイナス5度の寒気が下り、伸び始めた新芽の9割が霜の被害に遭った。幸い、副芽がその後から芽吹き、その内の半分くらいはブドウの実を付けてくれたが、今度は5月から7月まで雨が降り止まず、開花も思うようにうまく行かなかった。その後もミルデューの蔓延などがあり、自社畑は8月の時点で収量の6割減が確定だった。他のトゥーレーヌブドウ農家も同様に収量が大幅に落ちるのは予め分かっていたので、収穫前はブドウの確保に奔走した。

2014年は、ミルデューが猛威を振るった年だった。例年になく冬が暖かく、霜もほとんど下りずにそのまま春を迎えた。春は5月上旬まで、まるで初夏のような良い天候に恵まれ、ブドウの成長ペースも1ヶ月ほど早かった。だが、5月中旬に入ると一転して、気温の上がらない雨がちな天気が続き、開花は順調だったが、それ以降はブドウの成長のスピードが鈍化し、畑に病気が出始めるようになった。病気が本格的に蔓延したのは7月中旬から8月中旬にかけて。長雨と湿気によりミルデューが猛威を振るい、特にブリュノ・アリオン、アラン・コクトーの畑があるシェール川周辺に被害が集中した。この時点で、ミルデューによる被害は20%~60%。9月に入ってから、再び天候が回復しミルデューは収まったのだが、今度は一部晩熟のピノドニスやコーなどが「スズキ」というショウジョウバエの被害でブドウは2013年同様、収量自体は例年を大幅に下回っている。しかしブドウの完熟度は例年以上に高く酸もしっかりとあり、ワインの品質的には当たり年と言えよう。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

独立後も変わらず高品質で安定したワインをつくり上げるボノーム！その後の日本での評価も上々だということをお本人に伝えると、彼は満足そうな笑みを浮かべ、倉庫の奥から何やら埃のうっすらかったボトルを取り出し開けてくれた。中身は2009年のシュヴェルニー赤。彼がティエリの助けなしで初めて単独で仕込んだワインだ！当時はまだ味わいが固くボラティルも少し高かったようだが、実際試飲してみると、艶やかな赤い果実の香りと染み入るようにこなれたタンニン、緻密でやさしいミネラルが融合した素晴らしく官能的な味わいで、とても美味しかった！

現在更にワインの精度を上げる取り組みとして、今年の秋までに、現在ワインのストック場所として使用している建物を大改築して、新たに3階建ての醸造所を建設する予定だ。また、将来的には自社畑の割合を増やす方向で、今年新たにムニョピノの畑60aを取得するなど、品質向上に向けて畑と醸造の両面から精力的に動いている！今でも十分に完成度の高いワインをつくる若きボノームが、これからブドウの木の樹齢と共にどんな成長を遂げていくのか楽しみでならない！（2015.4.21.と6.12のドメーヌ突撃訪問より）

(2015.4.21.と6.12のドメーヌ突撃訪問より)